

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

毎食前、全館に氷川きよしのズンドコ節のメロディーが流れる。各ユニットで一斉に「ズンドコ体操」が始まる。元気なリーダーが出て、手足を動かして身体の運動をする。体操の後、短音の連発と言葉をしっかりと発音をして、口腔ケアをする。嚥下機能促進にもなる。3つのユニット共通の生活リハビリで、多くの人が楽しみながら参加している。

趣味を生かした作品づくりもする。縫い物の得意な人のアイデアで、きれいな色のタオルで可愛いイドレスが出来ていた。これに水を含ませ、部屋の調温に役立っている。このタオルのドレスが窓に7~8着並べてハンガーに吊っていると、見事な装飾品であり、他のユニットにも配られていた。

塗り絵の得意な人、演算や文字を書くドリルをする人、本を朗読する人、新聞を読む人など頭の体操もしっかりしている。このように、自分の経験や趣味を活用して、脳の維持にも努めていて、日々の生活の中から心身の機能維持にも力を注いでいるのは介護予防の一つかも知れない。

こういう事をしながら、利用者はゆったりとした時間を過ごし、職員が何気なく寄り添ったり、話し相手をして静かな生活を送り、利用者の不足している部分だけをさりげなくケアしている。利用者のベース、気持ちを大切にしている。

3ユニットに男女混えて27人の利用者がいると、色々な性格の人がいる。又、精神面、身体面の状態も様々である。しかし、皆笑い声と笑顔が絶えない。このグループホームの礎「敬愛の精神」が根付いている。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

リスクはあったが、当初このグループホームは昼間、玄関の鍵を掛けていなかったが、最近になって帰宅願望が強い利用者が入られてから施錠するようになったらしいが、早く、警報やモニター等監視の工夫もして、敷地内に出れる事を期待したい。

散歩等はよく行くが、買物に出る事はまだ少ないようなので、社会に触れさせる機会を積極的に創出して、近隣との付き合いも出来るようにしてもらいたい。

家族との関係を蜜にして、家族の訪問、家族の運営への関わりなどを進めていくために、家族会を立ち上げて、ホームでの生活や認知症に関する情報提供やホーム側から家族への協力を求めるきっかけをつくって行くことも必要と思う。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

各ユニット共、同じようなレイアウトになっていて、食事の献立や材料も同じであり、生活の流れも大体同様であるが、利用者とは、それぞれ個性があるので、各ユニットの雰囲気は何かを感じる。やはり生活や住まいは、そこに住む人間が造るということが良く分かる。

周辺は、田園地帯の中に住居が点在している感じで、近所に商店もないので、買物は利用者が毎日行くという訳にはいかない。近所を散歩する事はあるが、近くに岡山市のふれあいセンターがあり、そこまで時々行くそうだ。

記録の中で、「生活と安全のカルテ」があり、アセスメント記録とは別に、個人の情報を詳しく記入されていた。この情報を基に個人ケアを考えていくと、一人ひとりの生きがいを見つけてあげることが出来ると思った。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

グループホーム全体としては、代表、施設長、管理者等でリーダー会議を開催して、運営やケアサービス等について意思疎通を図っている。各ユニットでも管理者以下職員で打ち合わせをしている。

職員は役割分担が広範囲に決められている。大きな法人の中のグループホームではなく、単独で自由な行動、活動が出来ようである。これからは家族とも連携を深め、利用者一家族グループホームが三位一体となって、利用者に対するサービスの向上に努め、地域との交流や外部の人達へも開放して、地域に密着した活動をするよう期待したい。

事業所名 敬愛

日付 平成18年3月30日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年
評価調査員 認知症高齢者建物施設設計16年、認知症介護専門指導員
評価調査員 老人保健施設相談員、介護支援専門員経験6年、厚生労働省認知症介護指導者

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	グループホームの名称「敬愛」(うやまい愛する)が理念でもあり、利用者一人ひとりの人格を尊び、持っている能力を大切に、それぞれの人が生き甲斐を感じてもらえるよう、施設長や管理者、職員が日々努力している。そして、いつまでも元気で、落ち着いた生活ができるよう支援している。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	玄関を入ると、左右と上方に3つのユニットが広がっている。各ユニットの入口近くにリビングルームとキッチンがあり、奥に向かって一直線に伸びた幅広い廊下があり、廊下に沿って各個室が配置されている。両端に共用トイレが2箇所あり、男性用小便器も設置してある。 リビングルームには、食事用のテーブルとソファがあり、利用者はその時に応じて使い分けてあるが、利用者は、このリビングルームで過ごす事が多い。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		